

御前崎地区官民合同水難救助訓練

25年6月18日

PWC（水上バイク）を用いた水難救助訓練のこの地域初の試みである。

10団体で参加者80名を超える人数。近隣地区では最大級の水難救助訓練が牧の原市にある、相良サンビーチにて行われた。見学者も加えると100人はゆうに超えていた。

訓練参加機関及び参加勢力

- 1) 御前崎海上保安所 「巡視船ふじ（視察対応・警戒指揮 24名）搭載艇（警戒3名）計27名」
- 2) 静岡県牧の原警察署 「警察車両2台 4名」
- 3) 静岡県警察航空隊 「警察ヘリコプターふじ2号 5名」
- 4) 吉田榛原消防署 「消防車1台 6名」
- 5) 牧の原市相良消防署 「消防車2台 救急車1台 16名」
- 6) 相良水難所 「救助艇大洋丸 6名」
- 7) 相良サーフライフセービングクラブ 「救助員 3名」
- 8) セーブ相良ビーチ 「救助員 5名」
- 9) 御前崎マリンクラブ 「安全パトロール艇チャレンジメイト 2名」
- 10) 御前崎‘渚の交番’スマイルプロジェクト 「PWC3台 青色パトロールカー1台 14名」

シーバード事務局・報道機関、近隣の行政機関の方々も多数、見学に来て頂いておりました。







民間救助組織スマイルプロジェクト&マリクラブ

御前崎をベースとした組織も参加して牧の原市にて合同訓練が行われました。

訓練調整係り

野口 貴史

スマイル海の安心安全事業役員

日本ウインドサーフィン協会安全委員会委員長 海上安全指導員

御前崎マリクラブ

安全パトロール艇 チャレンジメイト乗組員

下村 裕

スマイル顧問 日本エンジニア代表 御前崎観光協会会長

関東小型船舶安全協会清水支部・御前崎地区長 海上安全指導委員歴 25 年

今福 秀行

今福建工代表 海上保安協力員 海上安全指導員歴 24 年



水上バイク隊

石原 智央 スマイル理事長 NPO 日本ウインドサーファー協会理事長
(株) オンズカンパニー取締役 御前崎市観光協会理事

松井 重樹 スマイル役員 ウインドサーファー (株) オンズカンパニー代表取締役

金原 彰彦 御前崎市海水浴場監視長 ROH デザイン サーファー

望月 信幸 PWC プロショップ・フュージョン代表

夏目 智史 ウインドサーファー 行政機関勤務

鷺坂 雅彦 鷺坂製材代表 牧の原市観光協会理事

漂流サーファー役

奥柿 亮平 スマイル役員 サーファー (株) ブルーミング

陸上班

本部テント

植田 浩行 スマイル幹事 SUPER (株) 榛原電業代表

高塚 義浩 スマイル役員 サーファー (株) 高塚設備代表

カメラ班

蓬台 恒司 ウインドサーファー ムーブ・ビーWEB 開発事務所

馬場みゆき スマイル役員 Ape x イングリッシュスクール

ビデオ班

大西 庸久 ウインドサーファー (株) サカエ



本訓練開始前スマイルは事前訓練（検証）を行いました。

事前訓練内容は

携帯メールへのメンバー内メール作成（無料MLを使用）

反省点 つながらなかったり、問題点が多々ありました。

改善方法 新たな連絡網（ラインや有料メールの使用）の構築を考える必要有り

（検証）

相良サンビーチまで水上バイク陸上で行った場合、海上を走った場合での検証訓練



12時に海保より連絡を受け メールにて召集 各自自宅及び勤務先より集合

12時20分 なぶら館裏より集合出発

陸上隊 相良港集合（野口・高塚・夏目・逢台）12時42分到着 12時48分相良サンビーチ現着

海上隊 12時31分マリンパーク出勤 12時52分相良サンビーチ現着

御前崎マリンパーク出勤班

シーバード艇 石原・奥柿

予備艇 御前崎市所有 YAMAHA 松井・金原

反省点

陸上隊は集まった隊員が全員で出艇場所を確認していなかったため、スムーズな行動にならなかった。

海上班はコンディションによつてのコースの確認が重要事項となること、フュージョン望月さんから意見を取り入れることで解消したい。

今後は出艇する可能性のある港等をメンバー全てで回り確認すること事で、共通認識を持つ。

海上を走るコースはフュージョン望月さんから意見を取り入れることで解消したい。

サンビーチにてリハーサル 訓練直前打ち合わせも行いました。



訓練1 シーバード号 ドライバー野口 レスキューー金原
野口所有艇 ドライバー石原 松井
漂流者2名 消防職員2名





1艇一人の救助を変更しWRMAのCフォーメーション2艇連携で対応し意識無しを先発救助、続けて意識有りをシーバード号で確保し浜へ向かい陸上隊に引渡しすることとした。

反省点

サイレンを鳴らすことを意識しすぎた、沖合いでのサイレンは聞こえない為、陸に戻る際サイレンを鳴らすことで海岸付近の安全につながるのではないか？サイレン使用法を思案する必要性あり。陸上隊との話、打ち合わせ不足の為、何処までが自分たちの行動かをお互いに意識する必要性あり、通常人手が足りない為、PWCが浜上げした際、ドライバーレスキューは常に救護テントまで運ぶ意識付けが必要である。

ヘリがホバーリングすることで、救助者の位置の確定が行いやすく非常に意義があると思った。

訓練2 シーバード号 ドライバー松井 レスキュー夏目

漂流サーファー 奥柿

漂流サーファー配達 野口所有艇 ドライバー石原 レスキュー金原



サーファーを確保した後、発炎筒で救助船に合図を送ることに変更された。

反省&改善

救助船に完備された吊り上げ器具を使用する予定でしたが事前打ち合わせとリハーサルを行わなかったため使用できなかったのが残念である。今後の訓練で活用したいと思う。

訓練3 シーバード号 ドライバー石原 レスキューー消防職員
漂流者 消防職員
漂流者配達 野口所有艇 ドライバー望月



浜にいる消防潜水士を乗せテトラに救助に向かう

反省&改善

消防職員に素早いピックアップを見せたが初トライの為、意思疎通が難しい。

改善法は消防や行政機関の方にも PWC レスキュー手法を知っていただけるとやりやすい。

訓練4

船同士の曳航訓練

故障船役を安全パトロール艇 御前崎マリンクラブ チャレンジメイトに下村、今福が乗船した艇
を相良水難救際所の大洋丸（松下）にて曳航した。



お互いに経験豊かなシーマンなので問題なくとり行われていた。

訓練 5 (引渡し検証)

海上保安庁巡視船ふじに水上バイクで横付けし要救助者をふじから出てきたはしごに移らせる事ができるかどうかの検証。

3台とも救助者役を乗せ沖合い待機の巡視船ふじに接近、各艇とも問題なく釣りはしごに救助者役を移すことができた。



この検証が

上手くできたことで、色々役に立てることが増えると思います。

映画ではないが飛行機墜落の際等、沖合いで多くの人を救助することになっても PWC から巡視艇に引き渡しができることが確認された。注意点は巡視船のインテーク吸い込みを注意すること、万が一船底に潜ったらどうなるのか？そこが一番怖い点と認識した。

もう一つ危惧したことは、船の水切りの部分、船底の横側部に海面下で横に出ている突起部分があるので衝突には注意した。

突起物に関しては、今回の海面なら停止中の場合はそれほど問題ないと思いました。但し海が荒れている場合は注意が必要であることに変わりはない。何よりも貴重な体験ができたと思います。

訓練終了後、各団体の調整係りにて反省会を行いました。

良い点として

多くの機関より PWC の有効性の高さを確認できたと言われました。

今後は活用を検討したい団体もありました。

悪かった点は

場内アナウンスが無かったことから訓練の進行状況の把握ができなかった。

改善方法でアナウンスを盛り込んだ形での訓練を検討したい。

次回は PWC レスキューデモンストレーション方式を入れ込む提案をしたいと思います。

共通の周波数を持つ無線機があれば有効性が増す。

我々の水上バイク隊が改善するべき点である。今年度中に対応したいと考えています。

要救助者の引渡しに伴う接近方法を確認しあうことが必要。

今後は事前訓練などで協調性を増していきたいと思います。

御前崎”渚の交番”スマイルプロジェクトからは

とてもよい経験ができました。仲間の中には生涯をかけてこの活動に賛同してくれるという嬉しい言葉も出るほど、実際の渚で起こりうる事故において、PWC レスキューの必要性をより認識して頂き、各参加団体の実際の活動できるエリアも明確化し、身のある訓練になったと思います。

今後は、各団体が顔の見える深いお付き合いで水難救助における連携を強化したいと思います。

御前崎スマイルプロジェクト・ビーチパトロール隊からは当初の予定 7 名の予定から総勢 15 名が参加し、水上バイクも 2 台から 3 台へ台数を増やした。

またシーバード事務局の世古さんも撮影及び見学に来てくれました。



水上バイクを使った合同訓練のお願いしたのが1年前、昨年9月の訓練延期からも、お気遣い頂き、準備の段階から我々の意見、要望を多々汲み取っていただき、音頭をとっていただいた、御前崎海上保安所の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

御前崎'渚の交番'が開設1年前ということもあり、協力体制の構築に向け、とてもよい経験となり、今後の活動につながると確信しております。

官だけでなく民間の仲間達が集まり団結することで、より多くの対応もでき、行政機関の方々に1秒でも早く、より安全で、より良くスムーズに救助者等を引き渡すことのできる地域作りを目指して行きたいと思っております。

官民で一丸となって悲しい水難事故が0になるように、マリンスポーツの普及をモットーにする我々も海辺の安全を守る活動にどんどん協力したいと思っております。足手まといにならぬように頑張って訓練、活動していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

今回参加された関係者の皆様、大変、お疲れ様でした。

御前崎'渚の交番'

スマイルプロジェクト 海の安心安全事業委員 野口貴史